



元気っ子通信

令和元年7月10日発行

もうすぐ夏休みです。

新1年生も学童の生活の流れを少しずつ理解できるようになりました。まだまだ身のまわりのことで指導員の言葉がけを必要としますが、いろいろ経験し、考えて行動できるようになってほしいと願っています。

学童では、昔の子どもたちのように自然の中で駆け回って遊ぶ純粋な「子供時代」の時間を守ってやりながら、友だち同士で起きる喧嘩、仲間外れ、泣いたり、笑い転げたり等たくさんのかかわりの中で、善悪の判断、心の自立へとつなげていきたいと思います。

些細なけんかでもすぐにイジメと取り上げがちですが、友だちとの中で起きるどれもこれもが子どもの成長にかかせないものです。大人になるまでの過程で良いこと、いけないこと、悪いことをいっぱい経験し、その時々で周りの大人からの適切な言葉を聞いて、「頑張ろう」「気を付けよう」「絶対にやらないでおこう」等と自分の考えをもって生きていけるようになるのだと思います。

最近のニュースを見ると、親子や友だちの間のトラブルで悲惨な事件が続いています。自分の思いを発散できる場が今の社会には少ないように思います。家の中でゲームばかりしていたらおかしくなってしまいます。

勉強のことばかりにがみがみ言っても集中力が欠け不満がたまってしまいます。子どもの言い分も優しく聞いてあげましょう。時間をかけて気長に子どもと向き合いましょう。でも子どもの言いなりにはならないでください。

野球、サッカー、ドッチボール、ままごと、虫捕りなど声を張り上げて遊んでいる子どもたちを見ているとこれこそ子供の姿だと思います。